

H27-B-4 深度108.44~108.71m 条線 (No.最-34) を変更

- H27-B-4 深度108.71mの断層面の走向・傾斜がN39°E80°SEであり、22Lの条線が認められる。

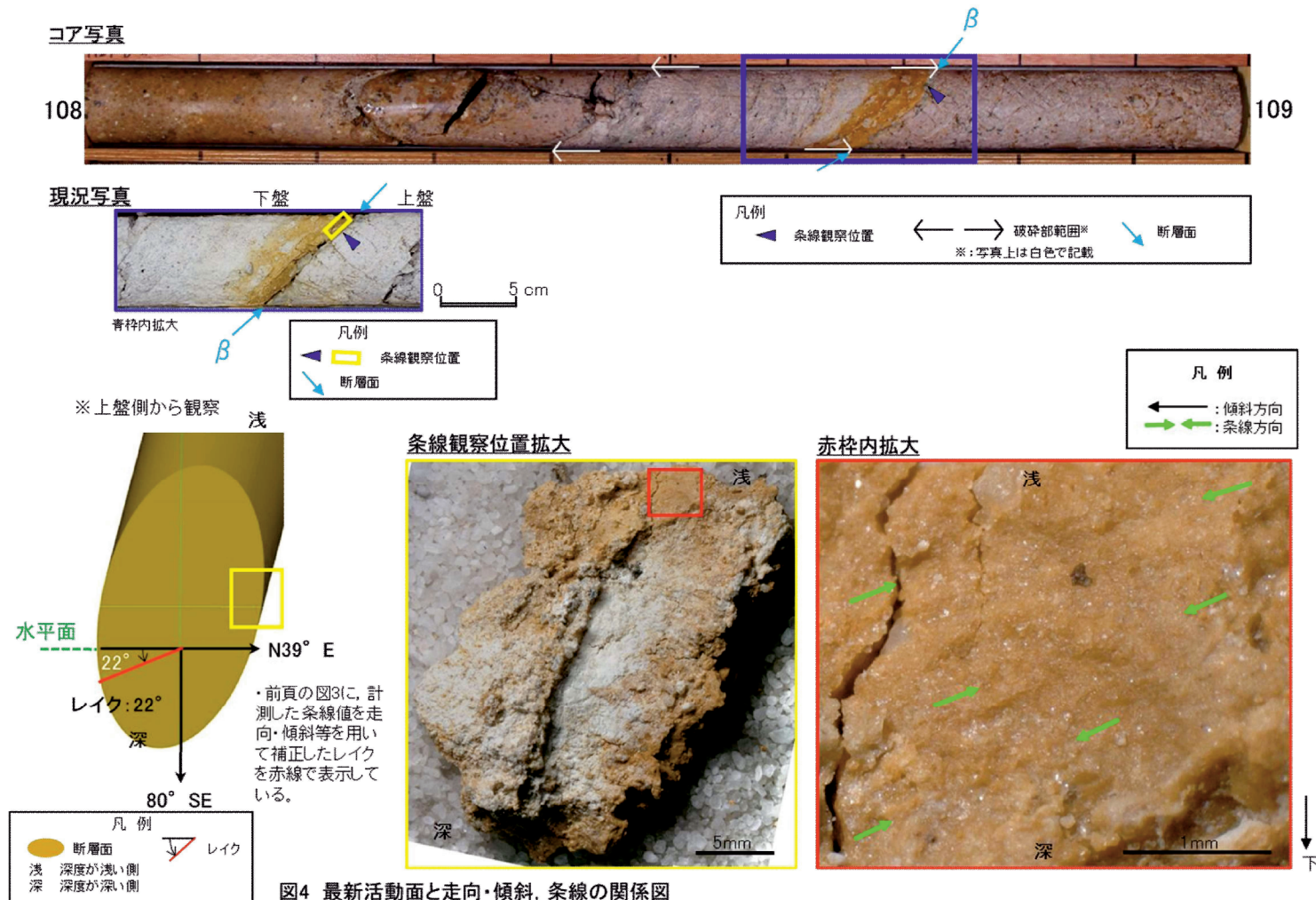


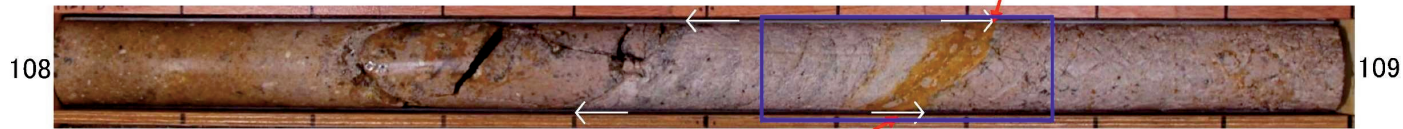
図4 最新活動面と走向・傾斜、条線の関係図

H27-B-4 深度108.44~108.71m 条線 (No.最-34) を変更

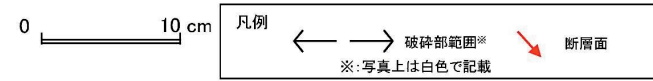
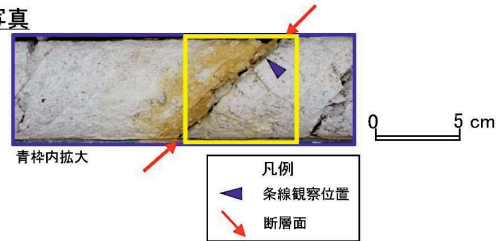
条線観察位置補足資料(H27-B-4 深度108.71m)

- 条線観察位置を残試料より復元し, 断層面位置(深度108.71m)で計測していることを確認した。

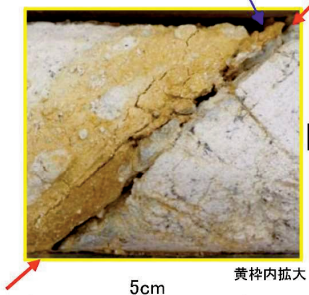
コア写真



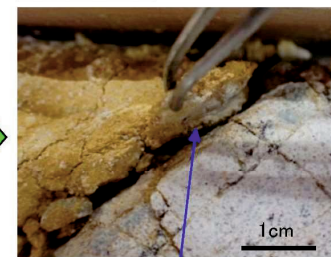
現況写真



条線観察位置



条線観察位置



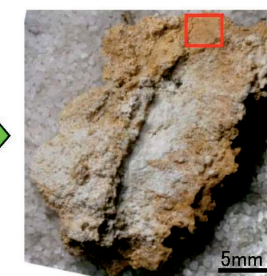
条線観察チップ

条線観察位置



条線観察チップ

条線観察位置拡大



1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響

・最新活動面の深度を10.20mに変更（No.最-35）

【理由】変更後の最新活動面認定方法に基づき実施した結果に変更

・走向・傾斜をN14E77Wに変更（No.最-36）

【理由】最新活動面の変更に伴い，走向・傾斜を再取得した結果に変更

【断層連続性評価への影響】なし

2. 変更箇所

a 性状一覧表のコア写真上で最新活動面を示す矢印の位置を変更（No.最-35）

b 走向・傾斜をN14E77Wに変更（No.最-36）

c 最新活動面の深度を「10.20m」に変更（No.最-35）（ただし、フォーム見直しにより数値の記載なし）

d ブロックサンプル上で最新活動面を示す矢印の位置を変更（No.最-35）

H24-D1-5深度10.19~10.21m 最新活動面の深度 (No.最-35) を変更

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料2

敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料2 性状一覧表

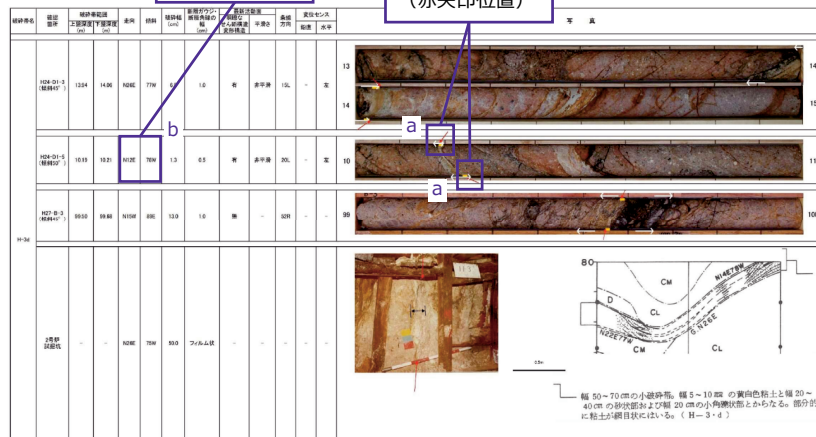
参考2-160頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(青太枠)

14.H-1~f-b-4-6破砕帯
性状一覧表(4/13)

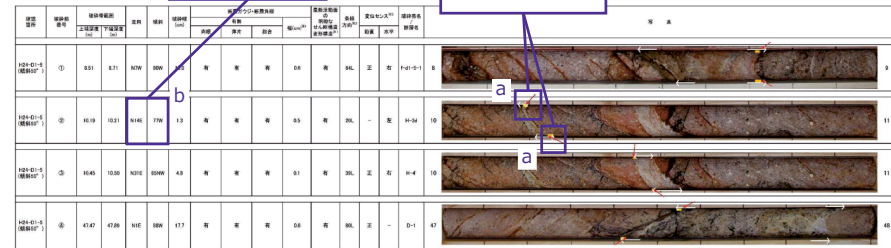
No.最-36
(走向・傾斜)

No.最-35
(赤矢印位置)



No.最-36
(走向・傾斜)

No.最-35
(赤矢印位置)



※1 断層帯区分の総合評価に基づき記載し、内観「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「-」を記載
 ※2 斜め所・ラングの場合、計測誤を修正した値を記載
 ※3 卓越しない成分については「-」を記載(組成「-」は薄片観察を行っていない箇所)
 (-上記以外)：データ未取得していない箇所

凡例
 最新活動面 ← → 破砕帯
 断層がワジ

【破砕帯】
 粘土状破砕帯、砂状破砕帯、角礫状破砕帯、
 層化した粘土状破砕帯、層化した砂状破砕帯、層化した角礫状破砕帯
 の合計の幅とし、破砕帯の走向傾斜から真の幅に換算した。
 【基準】
 平：最新活動面が最浅的なもの
 半平：最新活動面が最浅的なもの
 基準：最新活動面が最浅的なもの

参考2-160

凡例
 最新活動面 ← → 破砕帯
 断層がワジ
 カラーバーが付いていない区間はカタクレイサイトを示す
 断層角礫

H24-D1-5深度10.19~10.21m 最新活動面の深度 (No.最-35) を変更

従前

見直し後

第833回審査会合

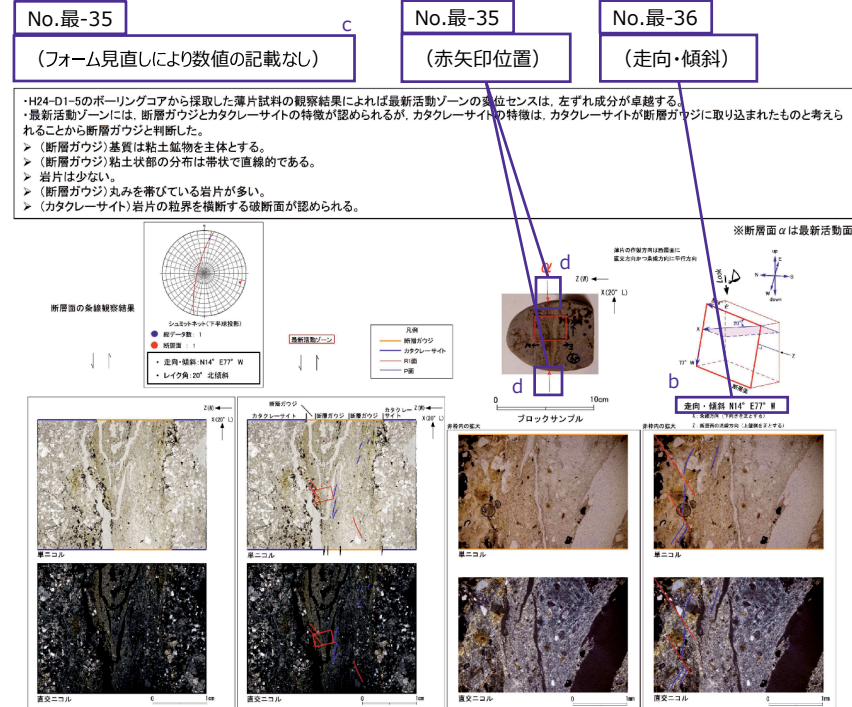
机上配布資料 1

敦賀発電所 2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

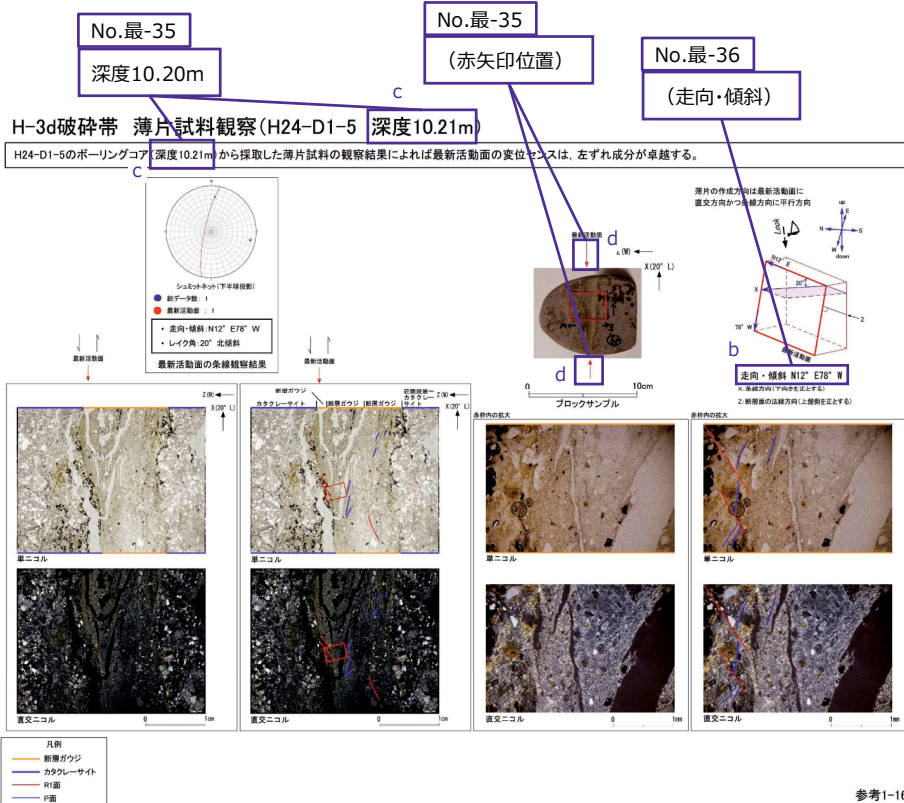
参考資料 1 薄片観察結果

参考1-167頁

第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)



6-7-1273



参考1-167

H24-D1-5深度10.19~10.21m 最新活動面の深度 (No.最-35) を変更

- 変更後の最新活動面認定方法によると、H24-D1-5深度10.19~10.21m の破碎部における最新活動面は10.20mの断層面であることから、最新活動面深度を変更した。

H24-D1-5 深度10.19~10.21m ボーリングコア観察 断層面の認定

- ボーリングコア観察において、深度10.21mに断層面 α が、深度10.20mに断層面 β が認められる。
- 断層面 α は、湾曲及び凹凸が少なく直線性に富む。また、不連続部が認められず、連続性に富む。
- 断層面 β は、湾曲及び凹凸が少なく直線性に富む。また、不連続部が認められず、連続性に富む。

コア写真

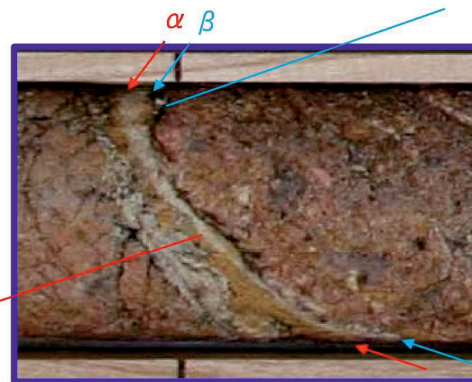


ボーリング柱状図

●10.19~10.21m : 破碎部 (H-3d破碎帯)
 10.19~10.20m : 粘土質礫状部 (Hb)
 上端27° で直線的にシャープに、下端36° でやや波打って連続。径1~3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質。灰白色を呈する。幅6~10mm。
 10.20~10.21m : 粘土状部 (Hc-1)
 上端36° でやや波打って、下端40° で直線的にシャープに連続。径1mm前後の石英粒を若干含む。軟質。灰白~上部側でにぶい黄色を呈する。幅4~6mm。

凡例
 ← → 破碎部範囲※
 ※:写真上は白色で記載

湾曲及び凹凸が少なく、不連続部が認められない



湾曲及び凹凸が少なく、不連続部が認められない

凡例
 ↓ ↑ 断層面

青枠部拡大

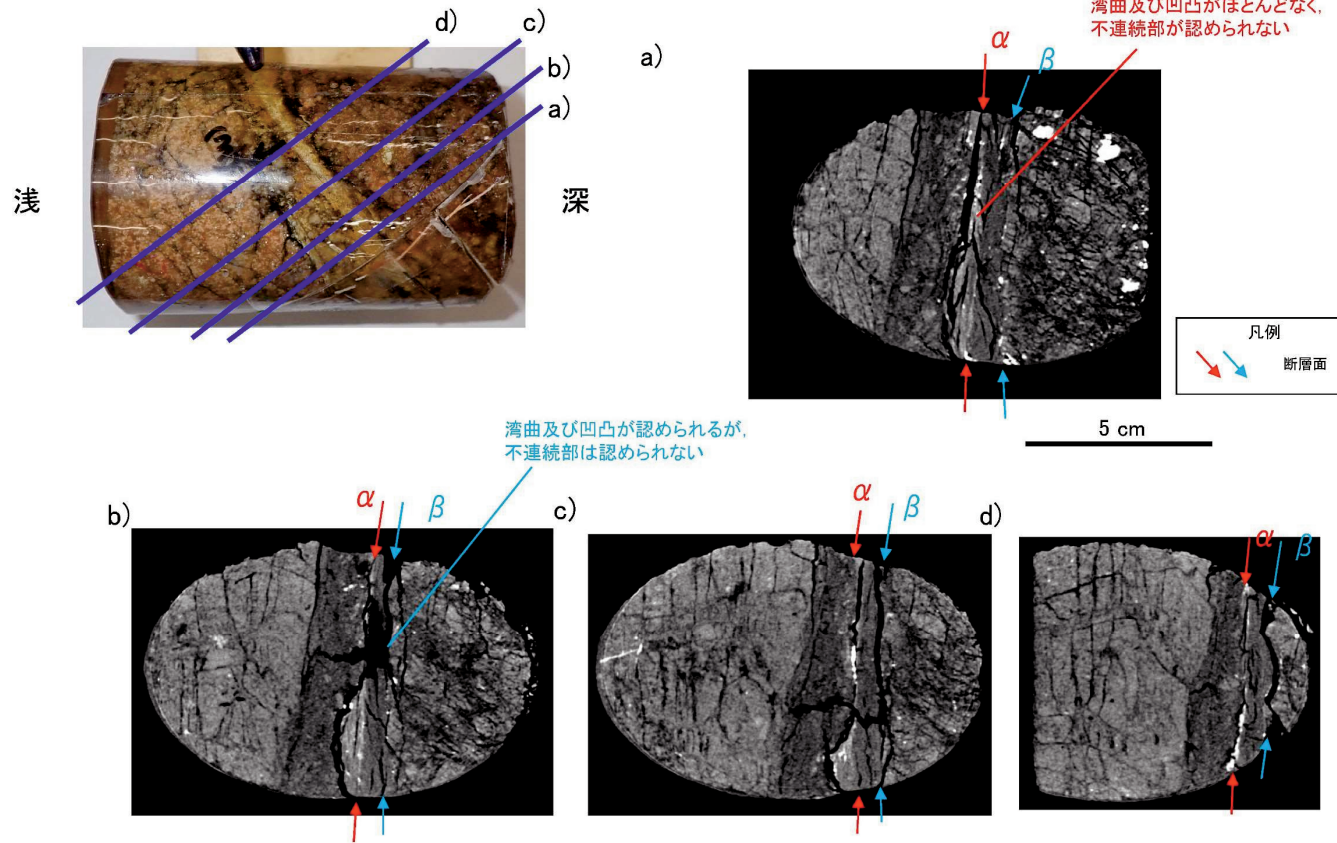


H24-D1-5深度10.19~10.21m 最新活動面の深度 (No.最-35) を変更

H24-D1-5 深度10.19~10.21m CT画像観察 断層面の認定

- ・CT画像観察において、ボーリングコア観察で認められた断層面 α 及び断層面 β が認められる。
- ・断層面 α は三次元的に他の構造に切られておらず、湾曲及び凹凸がほとんどなく直線性に富む。また、不連続部が認められず連続性に富む。
- ・断層面 β は三次元的に他の構造に切られておらず、湾曲及び凹凸が認められ直線性に乏しいが、不連続部が認められず連続性に富む。

研磨片CT画像



H24-D1-5深度10.19~10.21m 最新活動面の深度 (No.最-35) を変更

H24-D1-5 深度10.19~10.21m 研磨片観察 断層面の認定

- ・研磨片観察においても、CT画像観察の結果と同様に断層面 α 及び断層面 β が認められる。
- ・断層面 α は他の構造に切られておらず、細粒部を伴い、湾曲及び凹凸が少なく直線性に富む。不連続部は認められず、連続性に富む。
- ・断層面 β は他の構造に切られておらず、細粒部を伴い、湾曲及び凹凸が認められ直線性に乏しい。不連続部は認められず連続性に富む。
- ・ボーリングコア観察、CT画像観察、研磨片観察より、最も直線的な深度10.20mの断層面 α を検討対象の断層面とした。

